

令和2年度第5回石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 会議録

■日 時 令和3年2月2日（火） 18時～19時15分

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

1 会議開催について

委員数20名に対して16名が出席しており会議は成立。

2 開会のあいさつ

(会長)

本日もお集まりいただきありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の話題が1年ほど続いており、経済界で生きている側としてはなかなか苦しい状況で出口の見えないトンネルをずっと走っているような状態である。

また、今年の3月11日で東日本大震災から10年が経とうとしており、マルホンまきあーとテラスや南浜津波復興祈念公園がまもなくオープンするなど、震災復興の総仕上げの段階となっている。

このような状況の中でも行政として本来やるべき業務もやらなければならないということで本会議を開催する運びとなっている。今回は総合戦略の延長に伴う改訂について皆さんに諮る予定としている。引き続き皆で力を合わせ石巻が元気になるよう、積極的な意見交換を賜りたいと思うので本日の会議もよろしく願いたい。

3 議事

(1) 協議事項

まち・ひと・しごと創生総合戦略改訂（案）について

(資料1、2：SDGs地域戦略推進室より説明)

質疑：特になし

(2) 報告事項

学生向け意識・希望調査結果について

(資料3、4：SDGs地域戦略推進室より説明)

(委員)

資料4の11ページ、大学生が就職先に望むものとして「高い給与」を求めている割合が最も高いが、これは他地域と比べて「高い」なのか。それとも市内企業の初任給を高くして欲しいという意味なのか。

(事務局)

大学生は全国平均や県内平均というものを目に見ていると思うので、そういったもの

を比較してこのような回答になったのではないかと考えている。

(委員)

理解した。なお、「やりがいや達成感」より「高い給与」を望んでいる人の方が多いという結果を私たちも理解する必要があるように思う。

(委員)

資料4の8ページ、高校生の就職・就業先が市外の理由でその他の「わからない」や未回答が多いという説明を受けて、思い出したことがある。先日中学1年生向けに講演を行ったが、その際には石巻が大好きだと答える子が非常に多かった。どの段階で石巻に住みたくなってしまうのか、外に行きたくなるのか分析することが非常に大切だと思う。今の高校の教育について、進学志向が強くなっており、地元企業の良さをアピールするような機会がなく、高校生が職業選択を十分にできていない状況にあるのではないかと考えている。また先生方も職業の選択肢をあまり持っていないのではないかとと思う。その結果、高校生はまちの良さを知っているものの、どういった企業が地元にあるのかを知らず就職先の選択肢が狭まってしまっているのではないかと考えられる。高校生等の若者に対して、地元企業の良さをアピールしていければ良いのではないかと。

(事務局)

高校生や大学生の中には、石巻市内にどういった会社があるのか、どのような業種があるのかさえ知らない人もいるのではないかとと思う。当室としてもこの結果を踏まえ、各課に今後の施策に生かしていくように伝えていきたい。

(委員)

総合戦略の基本目標3、No.48のKPI「市立高校の生徒が本市に住み続けたいと思う割合」の目標値について、この調査結果を踏まえて令和3年度も70%にするものだと思うが、設問6では「石巻市に住みたい・住み続けたい」が26.2%となっていることについて、市立高校と県立高校の整合性についてどのように捉えているのか。また石巻市在住の高校生のうち200人程度は仙台市等にある高等学校に通っているが、その人たちが地元に対してどういう意識をもっているかが今後の石巻にとって重要だと思っている。

また、大学生の調査対象を4年生ではなく3年生としているのはなぜか。

(事務局)

資料3、4の学生向け意識・希望調査結果は市内全ての高校を合わせた数字である。桜坂高校のみでは154人の回答のうち51人が住みたい・住み続けたいと答えていることから、市内にある全ての高校を合算した割合より少し高くなっているが、目標にしている70%には至っていない。小中学校の頃から地元への愛着教育に取り組んでいることから、この目標値を達成できるようにしていきたい。なお、令和元年度の「市立高校の生徒が本市に住み続けたいと思う割合」の実績は50.6%であった。

大学生については今年度に初めてオンラインで実施しており、経年比較ということで3年生を対象としている。アンケートの実施方法や対象は今後検討していきたい。

(委員)

学習指導要領が改訂され、今年度から小学校でキャリア形成の実現という内容を取り扱うことになった。それによって小学校から段階的にキャリア形成について考えていかなければならなくなったことから、小学生や中学生にこのような調査を実施することはできないだろうか。

(事務局)

現在のところ、小中学生までこのような調査を拡大して実施することは考えていないが、今後研究していきたい。

(委員)

意識というものは一朝一夕で変わるものではなく、家庭の中で生きがい等が育っていくものと考えられるため小学生からの調査や意識付けが重要であると思う。1年後や5年後に施策を実施した成果がどのように表れたかについて、取り組んだ施策と併せて一緒に振り返りながら考えていく必要があるのではないかと。また、項目間の関連性について分析することが非常に重要だと考えている。例えば、「住みたい」けど「就職先がない」。「就職先がない」理由には、「給与の体系」や「福利厚生」が不十分だ。というように考えていくと、3次元的な対策が生まれてくるのではないかと。

(事務局)

調査するだけになってしまっただけだと思っている。調査結果について、庁内全体に提供しているがなかなか施策効果が見えてきていない状況なので、今後結果が見えるような施策を展開していきたい。

(会長)

調査を継続して実施し、それを生かしていくということは非常に大切だと思うのでよろしくお願ひしたい。

(委員)

資料4の15ページ、自由記載を見ると公共交通を充実させるということがポイントになってくるのではないかと。実際に子どもたちと話していると道路がたがたしているや道幅が狭いといった意見が出てくる。高校生になると自分自身で移動する機会が多くなることから、より大変さを感じているのかなと思う。

また資料4の13、14ページの回答では通勤先への移動時間や費用の面を課題にあげている人もいることから、こういった課題の解決策を打ち出せば石巻に住んだまま通勤しようと思う人が増えるのではないかと考える。

(事務局)

現在、交通に関する計画を策定中であり、このような高校生の意見は非常に重要であるので参考にしていきたい。

(会長)

SDGs 未来都市の取組として市が新たに着手しているグリーンスローモビリティ等

が導入され、いずれ自動運転となっていくことにより、時間はかかるが解決していく問題もあるのではないかと考えている。

(事務局)

高校生等の学生だけではなく、高齢者にとっても公共交通の課題は大きいのではないかと思う。国の方でもあらゆる移動手段を確保し活用していくことを奨励している。本市においても交通戦略を定めているところではあるが、法律の改正等を受け、地域に入り込んだ形で交通に関する課題を洗い出し地域ごとのニーズを把握した上で、交通戦略を策定するという方向で進んでいる。その中で皆さんの意見をいただく機会もあると思うのでよろしくお願ひしたい。

(委員)

高齢者の方の移動も問題だと思うが、未来を担う子どもや高校生の声に耳を傾け、取り組んでいく姿勢を示してもらえると、子どもたちが今後石巻で過ごすという考えに繋がってくると思うので、ぜひ子どもたちの移動という視点も検討していただきたい。

(委員)

資料4の13、14ページあたりを見ると地元に対する愛着や人のつながりがあると回答している人は多いのに、居住が難しい理由として半数近くが「就職先がない」と答えている現状にある。市として大企業を誘致するという考えはないのか教えて欲しい。

(事務局)

企業誘致を担当している課があり、市にとってどのような企業に来てもらえれば良いのか戦略的な部分も含めながら、ターゲットを絞って会社訪問やアンケート調査を実施している。また現在、企業誘致に関する内容も含めた新たな産業振興プランの策定を進めているところである。

(委員)

入試の倍率が発表されたが、市立高校に関しては定員の半分に満たない状況であり、市内の県立高校でも倍率が下がっている。この背景には少子化の影響ももちろんあるが、中学校の進路指導において地元高校への進学ではなく仙台市内にある進学校へ進学を進める傾向にあることが一因にあると思われる。また最近の高校ではアルバイトが基本的に禁止されており、仕事を知る機会もなかなか得られない状況にあるなど、子どもたちが地元を選ぶという機会が失われてしまっているのではないかと考えている。

いくら小学生のときに石巻が大好きでも、成績が良ければ中学2、3年時の進路選択の際に仙台圏の高校を進められるなど、地元視点に向けるといった機会が減っており危機感をもっている。石巻に残ってもらえるような施策を私たちも考えていかなければならないと思っている。

また石巻市のSDGsに関する発信は拝見しているが、高校生になかなか知ってもらえていないように思う。若い子たちに見てもらえるようなSNSの活用をはじめ、庁舎の壁に掲示するような目につきやすいカジュアルな発信による啓蒙が必要なのではないか

と思う。

(事務局)

SDGsの発信についてはコロナの影響もあり、なかなか思うように進められていない状況にあるが、桜坂高校では出前講座の依頼をいただき、SDGsについて説明をさせてもらっている。地道に発信を続けていきたい。

また、人の目につきやすいものとして一時期は懸垂幕を庁舎に掲示していたが、イベントの関係により現在は撤去している。庁内各所にSDGsのポスター等の掲示をしているが、今後はより市民の方の目につくような掲示や発信をしていきたい。

(委員)

昔は今と比べて先生の異動が少なかったことから、20年以上同じ町で働きその町をなんとかしようという意識の先生も多かったように思う。しかし今はローテーションで最長10年程度となっていることから、先生自身の町への愛着というのがなかなか育たない環境だと思う。

また最近では文部科学省の指示により、企業と同じような評価制度を教育現場に導入させており、これによって現場の先生はレポートで手一杯になり生徒と向き合う時間を十分に確保できない状況に陥っている。

教育委員会の先生がこういった地域への愛着や地元に残ってもらうことについて議論する会議に入ってもらうことが非常に大切であると思う。

SDGsについては英語としてはとても立派であるが、示されている日本語の訳によってわかりにくくなっている。「持続的」という表現は馴染みがないし、「開発」と言われると、土地開発を連想してしまう。例えば、「持続的」と直訳するのではなく、「継続的な」や「安定した」というような日本語的に解釈した表現にしないと伝わらない。言葉のイメージによる影響は非常に大きいので適切な日本語の選択をしていただきたい。

(委員)

思いついたので話させてもらうが、GIGAスクール構想で小学1年生から一人一台タブレットが渡され、それを活用して指導することとなっている。そのため、タブレット端末を使いながら、指導の一つとして今回の大学生向け意識希望調査のように、Googleフォームを使いながらアンケート調査を実施することは可能ではないかと思った。

(委員)

せっかく毎年度積み重ねてアンケート調査を実施しているので、この得られた結果を踏まえて役立つような方策を考えて対応して欲しい。

(会長)

このアンケート結果を無駄にすることなく、取り組んでいってもらいたい。またこの会議のどこかのタイミングで、取り組んだ結果について報告してもらえばと思う。

4 その他

(1) 第2次石巻市総合計画中間案のお知らせについて

(資料5：SDGs地域戦略推進室より説明)

(事務局)

第2次総合計画の中間案の概要版を配布させていただきました。これと同じものが自宅にも届いているかと思う。第2次総合計画に対する意見を求めるものであるので、ぜひ目を通していただき、意見等があれば提出していただきたい。

(2) 令和3年度まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議委員の委嘱について

(SDGs地域戦略推進室より説明)

(事務局)

今回説明させていただいたように総合戦略を1年延長することとした。それに伴い、これまでの経過を把握していただいている現委員の皆さんにあと1年委員として評価検証していただければと思っている。3月中に推薦団体を介して依頼をする予定としているので、ぜひ前向きに検討していただきたい。

5 閉会あいさつ

(副会長)

お忙しい中お集まりいただきありがとうございました。本日の会議でもたくさんの御意見をいただき終了とさせていただいた。これまで委員として6年積み上げてきたものがあるので、もう1年延長ということで最後の集大成という形で来年度も皆さんと取り組めたらと思うので、よろしく願いしたい。

石巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議名簿

(令和3年2月2日)

No.	氏名	所属	備考
1	安住 栄一	牡鹿地区住民代表	出席
2	阿部 紀代子	コンパクトシティいしのまき・街なか創生協議会	副会長 出席
3	荒木 裕美	NPO法人 ベビースマイル石巻	出席
4	伊藤 桂子	桃生地区住民代表	欠席
5	井深 修一	株式会社七十七銀行石巻支店（代理：村上様）	出席
6	葛西 すめほ	石巻市町内会連合会女性部会	欠席
7	木村 美保子	NPO法人 いしのまきNPOセンター	出席
8	後藤 宗徳	一般社団法人石巻観光協会	会長 出席
9	西條 拓也	いしのまき農業協同組合	出席
10	佐々木 清勝	河北地区住民代表	出席
11	佐藤 秋子	いしのまき農業協同組合	出席
12	佐藤 清子	河南地区住民代表	出席
13	佐藤 尚美	北上地区住民代表	欠席
14	須能 邦雄	石巻市水産振興協議会	出席
15	高橋 真由美	雄勝地区住民代表	欠席
16	中川 尚仙	石巻商工会議所	出席
17	芳賀 信幸	石巻市地域包括ケア推進協議会	出席
18	畑山 實	連合宮城石巻地域協議会	出席
19	杉浦 隆浩	一般社団法人 石巻青年会議所	出席
20	横江 信一	石巻専修大学	出席

アドバイザー

	大岩 昇	総務部総務課 法制企画官	出席
--	------	--------------	----